

履修要項

2025年度



TEIKYO

帝京大学理工学部
データサイエンス学科

帝京大学「建学の精神」 教育理念「自分流」とは

努力をすべての基とし偏見を排し
幅広い知識を身につけ
国際的視野に立って判断ができ
実学を通して創造力および人間味豊かな
専門性ある人材の養成を目的とする

自分流とは、生き方の哲学そのもので、
自分のなすべきこと、興味あることを見つけだし、
自分の生まれ持った個性を最大限生かすべく知識や技術を習得し、
それを自分の力として行動する。
そしてその結果については自分自身が責任をもつことである。
本学はこの自分流の生き方を
学生に身につけてもらおうべく、サポートしている。

教育指針

実践を通して論理的な思考を身につける「実学」
異文化理解の学習・体験をする「国際性」
必要な知識・技術を偏ることなく幅広く学ぶ「開放性」

帝京大学

(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

帝京大学は、教育理念とする「自分流」および教育指針とする「実学・国際性・開放性」に基づいた教育を実践し、建学の精神に掲げる人材を育成することを使命および目的としている。本学の定める教育課程を修了し、以下に掲げる能力を身につけた者に対して学位を授与する。

- 1、自律・自立して学修できる（生涯学習力）
- 2、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる（情報収集力）
- 3、人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する（幅広い教養）
- 4、口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する（表現力）
- 5、多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる（異文化理解力）
- 6、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる（課題発見力）
- 7、協働作業によって新たなものを構築することができる（協働力）
- 8、獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる（実践力）

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成の方針)

帝京大学は、学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、教育指針とする「実学・国際性・開放性」に基づき、以下の方針で学部学科等のカリキュラムを編成する。
また、帝京大学アセスメント・ポリシーに基づき、学修成果の評価を行い、全学的な教育課程や教育方法の改善を図る。

- 1、「教養教育科目」では、幅広い知識と教養、文理複眼的な思考力を身につけるため、4つの分野（人文科学系分野、社会科学系分野、自然科学系分野、文理融合分野）に区分し、分野ごとに科目を配置する。
- 2、「初年次教育科目」では、高等学校等から大学への円滑な移行を図り、多様な入学者が主体的な学びを実践できるよう、大学での学修の動機付けや学修習慣の形成、学びの基礎となる汎用的技能の獲得を促す科目を配置する。
- 3、「キャリア教育科目」では、生涯学び続ける力や就業力（企業に雇用されうる能力と自身のキャリア・パスを構想し実行しうる能力）を養成するための科目を配置する。
- 4、「情報教育科目」では、多様な情報を収集・分析し、社会課題を解決する力を身につけるため、デジタル社会で必要となる情報に関する知識と技能を修得する科目と、数理・データサイエンス・AIに関連する科目を配置する。
- 5、「外国語教育科目」では、帝京グローバルコンピテンシーに掲げる能力を身につけるため、語学や異文化理解を学修する科目を配置する。
- 6、「専門科目」では、学部学科等の専門分野についての主体的な学びを促し、知識・技能を身につけるための科目を体系的に配置する。

理工学部

(目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー)

教育目的

理工学部は、建学の精神に則り、理学系分野、工学系分野にかかわる幅広い知識を身につけ、国際的視野に立って判断ができる人材の育成を目指す。各分野において、実験、実習に重点をおいた理論から実践に亘る実学教育により、創造力および人間味豊かな専門性を持った人材を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

理工学部は、理学、工学の教育研究を基盤に、専門的知識と総合的視野をもち、社会の発展に寄与できる人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 人文科学、社会科学、自然科学を学び、さらに専門科目を通して幅広い知識を身につけ、応用課題に適応できる。
2. 多文化・異文化に関する知識を持ち、コミュニケーションスキルを活用して協働作業ができる。
3. 実学を通して獲得した能力を総合的に活用して、さまざまな課題に対応できる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を修得するために、理工学部は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 生涯学び続ける力、国際的視野に立って判断できる力、そして技術者に必要な基礎的知識を身につけるために共通教育科目を設定する。
2. 理工系の技術者として必要な専門的知識と総合的視野を身につけるために専門科目を設定する。
3. 実学を通して、さまざまな課題に対応できるように演習・実験・実習・卒業研究を設定する。

データサイエンス学科

教育目的

データサイエンス学科では、数理・統計学と情報工学の専門知識やスキルといった理論的基礎の上に、データから価値のある情報を創造し、それを意思決定に活かす能力を備えた人材の育成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

データサイエンス学科は、数理・統計学と情報工学の専門知識やスキルを身につけ、データから価値のある情報を創造し、それを意思決定に活かす能力を備えた人材の養成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 人間と社会と環境の関係の重要性を理解し、広い視野を持ち、技術者としての倫理観に基づいて判断することができる。
2. 問題を多面的に分析、統合し、課題を設定する力、プロジェクトを推進、管理するための基礎的な力を身につけて、さまざまな問題を意欲的に解決することができる。
3. 理工系の基盤である数学、物理学の知識と、データ解析の基盤となる数理・統計学、情報工学の知識を身につけている。
4. 計算機に推論や認識などの知的機能を実現するための人工知能の理論を身につけ、その技術を開発することができる。
5. 経営データや医療データ等のビッグデータを分析・活用・保存するための理論を身につけ、データから価値を創造するプログラムを開発することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される能力を習得するために、データサイエンス学科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 人間と社会と環境の関係の重要性を理解し、広い視野を持ち、技術者としての倫理観に基づいて判断できる力を養成するために、初年次教育科目、教養教育科目、情報教育科目、キャリア教育科目、外国語教育科目などの共通教育科目を設定する。
2. 問題を多面的に分析、統合し、課題を設定する力、プロジェクトを推進、管理するための基礎的な力を身につけて、さまざまな問題を意欲的に解決する力を養成するために、プログラミング科目、情報工学科目、卒業研究科目を設定する。
3. 理工系の基盤である数学、物理学の知識と、データ解析の基盤となる数理・統計学、情報工学の知識を身につけるために、専門基礎科目、数理・統計科目、情報工学科目を設定する。
4. 計算機に推論や認識などの知的機能を実現するための人工知能の理論を身につけ、その技術を開発する力を養成するために、人工知能科目を設定する。
5. 経営データや医療データなどのビッグデータを分析・活用・保存するための理論を身につけ、データから価値を創造するプログラムを開発する力を養成するために、プログラミング科目、経営情報科目、医療情報科目を設定する。

目 次

修得目標・カリキュラムマップ	1
授業科目履修一覧表	5
カリキュラムツリー	7
履修モデル	8
学年暦	9

授業関連および学生生活上の規則について

授業および時間割、履修登録	10
出欠席	10
交通機関の不通と警報による休講	11
単位認定	11
GPA制度	12
試験の種類など、追試験と再試験	13
受験上の注意、レポート	13
卒業	15
在学年限、休学、復学、退学、除籍	15
オフィスアワー	16
講義内資料	16
科目ナンバー	16
共通教育科目	17
数理・データサイエンス・AI応用基礎教育プログラム	18

修得目標

		学科の修得目標		全学の修得目標	4要素
レベル1		レベル2			
A	人間と社会と環境の関 係の重要性を理解し、 広い視野を持ち、技術者 としての倫理観に基づ いて判断することがで きる	1	物事を複数の観点から考察できるような広い視野を持つことができる	B. 多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	汎用的技能
		2	多様な背景をもつ人々に対する理解や想像力を柔軟に育みにつけることができる	E. 多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる	知識・理解
		3	人文科学、社会科学、自然科学に関する知識を習得し、専門的な活動に活用できる	C. 人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する	知識・理解
B	問題を多面的に分析、統合し、課題を設定する力、プロジェクトを推進、管理するための基礎的な力を身につけて、さまざまな問題を意欲的に解決することができる	4	プロジェクトにおける問題を見出すことができ、問題を整理することができる	A. 自律・自立して学修できる	態度・志向性
		5	チームで作業する際に必要となる協調的なコミュニケーション力を身につけることができる	G. 協働作業によって新たなものを構築することができる	態度・志向性
		6	プロジェクト推進や問題解決にむけた、プレゼンテーション力を身につけることができる	D. 口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する	汎用的技能
C	理工系の基盤である数学、物理学の知識と、データ解析の基盤となる数理・統計学、情報工学の知識を身につけている	7	数理・統計学、情報工学への理解に向けて、主体的に学修できる		統合的な学習経験と創造的思考力
		8	理工系の基盤となる基礎科目の理解に向けて、主体的に学修できる		知識・理解
D	計算機に推論や認識などの知的機能を実現するための人工知能の理論を身につけ、その技術を開発することができる	9	目的の製作物をその用途に適するよう、構想・設計・作成することができる	F. 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる	汎用的技能
		10	計算機に推論や認識などの知的機能を実現するための人工知能の理論を身につけるため、主体的に学修できる		知識・理解
E	経営データや医療データ等のビッグデータを分析・活用・保存するための理論を身につけ、データから価値を創造するプログラムを開発することができる	11	データから得られる価値を創造し、それを導くためのプログラムを開発することができる	H. 獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる	統合的な学習経験と創造的思考力
		12	経営データや医療データを分析・活用・保存するための理論を身につけるため、主体的に学修できる		知識・理解

カリキュラムマップ

科目名	必修・選択等区分	配当年次	データサイエンス学科 修得目標 レベル1：A～E /レベル2：1～12											
			A			B			C		D		E	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ライフデザイン 1	必修	1年	○			○	○	○			○			
ライフデザイン 2	必修	1年	○			○	○	○			○			
心理学	選択	1年			○									
日本史の転換点を見極める	選択	1年			○									
心ころがるサイコロジ	選択	1年			○									
経済学	選択	1年			○									
医療とボランティア	選択	1年			○									
社会と医療	選択	1年			○									
多文化社会論	選択	1年			○									
地域健康管理学入門	選択	1年			○									
日本国憲法	選択	1年			○									
罪と罰を科学する	選択	1年			○									
国際理解の扉を開く（ポストコロナル太平洋の探求）	選択	1年		○	○									
生命と物質のサイエンス	選択	1年			○									
グラフィック基礎	選択	1年			○									
数理科学入門	選択	1年			○									
安全と危機管理学	選択	1年			○									
薬の現在・過去・未来	選択	1年			○									
科学とはなんだろう	選択	1年			○									
数学基礎演習	自由	1年			○									
イノベーションをはじめよう	選択	1年			○									
価値デザイン入門	選択	1年			○									
SDG's概論	選択	1年			○									
データサイエンス・AI入門	必修	1年	○											
統計学入門	選択	1年	○											
ライフデザイン 3	必修	2年	○			○		○						
ライフデザイン 4	必修	2年	○			○		○						
ライフデザイン 5	必修	3年				○								
ライフデザイン 6	必修	3年				○								
英語1	必修	1年		○										
英語2	必修	1年		○										
英語3	必修	2年		○										
英語4	必修	2年		○										
日本語 1	選択	1年		○				○						
日本語 2	選択	1年		○				○						
TOEIC対策英語	選択	1年		○	○			○						
アカデミック・イングリッシュ	選択	1年		○	○			○						
イングリッシュ・コミュニケーション	選択	1年		○	○			○						
中国語入門	選択	1年		○										
コリア語入門	選択	1年		○										
国際事情 1	選択	1年		○				○						
国際事情 2	選択	1年		○				○						

カリキュラムマップ

科目名	必修・選択等区分	配当年次	データサイエンス学科 修得目標 レベル1：A～E /レベル2：1～12											
			A			B			C		D		E	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
基礎数学	必修	1年								○				
物理学 1	必修	1年								○				
微積分学 1	必修	1年								○				
線形代数	必修	1年								○				
工学基礎実験	必修	2年								○				
論理数学	選択	1年								○				
物理学 2	選択	1年								○				
微積分学 2	選択	2年								○				
離散数学	選択	2年								○				
技術者倫理	選択	2年	○	○						○				
応用数学	選択	2年								○				
グラフ理論	選択	2年								○				
量子物理学	選択	3年								○				
データサイエンス応用基礎 1	必修	2年							○			○		
データサイエンス応用基礎 2	必修	2年							○			○		
数理統計学	必修	2年							○					
実験計画法	選択	2年							○					
多変量解析	選択	2年							○					
オペレーションズリサーチ	選択	3年							○					
数値解析法	選択	3年							○					
プログラミング 1	必修	1年							○				○	
プログラミング 2	必修	1年							○				○	
プロジェクト演習	必修	1年				○	○	○					○	
Webプログラミング	選択	2年							○				○	
プログラミング言語論	選択	2年							○				○	
情報基礎	必修	1年							○					
データ構造とアルゴリズム	必修	2年							○					
企業実習（インターンシップ）	必修	2年	○	○		○	○	○	○					
論理回路	選択	2年							○					
計測論	選択	2年							○					
プロジェクト管理	選択	3年				○			○					
コンピュータネットワーク	選択	2年							○					
計算機アーキテクチャ	選択	3年							○					
オペレーティングシステム	選択	3年							○					
情報技術基礎	選択	1年							○					
ソフトウェア工学	選択	2年							○					
情報セキュリティ	選択	3年							○					
オートマトンと計算理論	選択	2年							○					
情報理論	選択	3年							○					
確率と確率過程	選択	3年							○					
デジタル信号処理	選択	2年							○					
システム工学	選択	3年							○					
データベース論	選択	2年										○		
人工知能	必修	2年										○		
実践的機械学習	必修	2年				○	○	○				○	○	○
画像情報処理	必修	2年										○		

カリキュラムマップ

科目名	必修・選択等区分	配当年次	データサイエンス学科 修得目標 レベル1：A～E /レベル2：1～12											
			A			B			C		D		E	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マルチメディア情報処理	選択	3年										○		
パターン認識技術	選択	3年										○		
人工知能の理論	選択	3年										○		
医療統計学	必修	3年												○
医療データ価値創造演習	必修	3年				○	○	○			○	○	○	○
医療管理論	選択	2年												○
診療情報管理学	選択	2年												○
国際統計分類	選択	3年												○
経済情報学	必修	2年												○
経営情報学	必修	2年												○
経営データ価値創造演習	必修	3年				○	○	○			○	○	○	○
ビジネス価値創造論	選択	2年				○	○	○						○
データアントレプレナー実践論	選択	3年				○	○	○						○
情報社会論	選択	3年	○	○										○
卒業研究	必修	4年				○	○	○			○	○	○	○

授業科目履修一覧表

科目区分		授業科目名	配当年次	開講期	単位数又は時間数			履修方法
					必修	選択	自由	
共通教育科目	初年次教育科目	ライフデザイン 1	1	前期	1			必修12単位 ＋ 選択10単位以上
		ライフデザイン 2	1	後期	1			
	人文科学系分野	心理学	1	前期		2		
		◆ 日本史の転換点を見極める	1	前・後		2		
		◆ 心ころがるサイコロジー	1	前・後		2		
		経済学	1	前・後		2		
		医療とボランティア	1	前期		2		
		社会と医療	1	前・後		2		
		多文化社会論	1	前・後		2		
		地域健康管理学入門	1	前期		2		
		日本国憲法	1	前・後		2		
		◆ 罪と罰を科学する	1	前・後		2		
	社会科学系分野	◆ 国際理解の扉を開く（ポストコロニアル太平洋の探究）	1	前・後		2		
		生命と物質のサイエンス	1	後期		2		
		グラフィック基礎	1	後期		2		
		数理科学入門	1	前期		2		
		◆ 安全と危機管理学	1	前・後		2		
		◆ 薬の現在・過去・未来	1	前・後		2		
		◆ 科学とはなんだろう	1	前・後		2		
		数学基礎演習	1	前期			1	
		◆ イノベーションをはじめよう	1	前・後		2		
		◆ 価値デザイン入門	1	前・後		2		
	自然科学系分野	SDGs概論	1	後期		2		
		◇ データサイエンス・AI入門	1	前期	2			
	文理融合分野	統計学入門	1	前期		2		
		ライフデザイン 3	2	前期	1			
	情報教育科目	ライフデザイン 4	2	後期	1			
		ライフデザイン 5	3	前期	1			
		ライフデザイン 6	3	後期	1			
		英語1	1	前期	1			
	キャリア教育科目	英語2	1	後期	1			
		英語3	2	前期	1			
		英語4	2	後期	1			
		日本語 1	1	前期		1		
		日本語 2	1	後期		1		
		TOEIC対策英語	1	前・後		2		
		アカデミック・イングリッシュ	1	前期		2		
		イングリッシュ・コミュニケーション	1	前・後		2		
		◆ 中国語入門	1	前・後		1		
		◆ コリア語入門	1	前・後		1		
		国際事情 1	1	前期		2		
		国際事情 2	1	後期		2		
	外国語教育科目							

授業科目履修一覧表

科目 区分	授業科目名	配当年次	開講期	単位数又は 時間数			履修方法
				必修	選択	自由	
専門科目	専門基礎科目	基礎数学	1	前期	2		必修49単位 ＋ 選択41単位以上
		物理学 1	1	前期	2		
		微積分学 1	1	後期	2		
		線形代数	1	後期	2		
		工学基礎実験	2	前期	1		
		論理数学	1	後期		2	
		物理学 2	1	後期		2	
		微積分学 2	2	前期		2	
		離散数学	2	前期		2	
		技術者倫理	2	前期		2	
		応用数学	2	後期		2	
		グラフ理論	2	後期		2	
		量子物理学	3	後期		2	
	数理・統計科目	データサイエンス応用基礎 1	2	前期	2		
		データサイエンス応用基礎 2	2	後期	2		
		数理統計学	2	後期	2		
		実験計画法	2	前期		2	
		多変量解析	2	後期		2	
		オペレーションズリサーチ	3	前期		2	
		数値解析法	3	前期		2	
	プログラミング科目	プログラミング 1	1	前期	2		
		プログラミング 2	1	後期	2		
		プロジェクト演習	1	後期	2		
		Webプログラミング	2	前期		2	
		プログラミング言語論	2	前期		2	
	情報工学科目	情報基礎	1	前期	2		
		データ構造とアルゴリズム	2	前期	2		
		企業実習（インターンシップ）	2	通年	2		
		論理回路	2	前期		2	
		計測論	2	前期		2	
		プロジェクト管理	3	前期		2	
		コンピュータネットワーク	2	前期		2	
		計算機アーキテクチャ	3	前期		2	
		オペレーティングシステム	3	後期		2	
		情報技術基礎	1	後期		2	
		ソフトウェア工学	2	後期		2	
		情報セキュリティ	3	後期		2	
		オートマトンと計算理論	2	後期		2	
		情報理論	3	前期		2	
		確率と確率過程	3	後期		2	
		デジタル信号処理	2	後期		2	
		システム工学	3	後期		2	
		データベース論	2	前期		2	
	人工知能科目	人工知能	2	前期	2		
		実践的機械学習	2	後期	2		
		画像情報処理	2	後期	2		
		マルチメディア情報処理	3	前期		2	
		パターン認識技術	3	前期		2	
		人工知能の理論	3	後期		2	
	医療情報科目	医療統計学	3	前期	2		
		医療データ価値創造演習	3	後期	2		
		医療管理論	2	前期		2	
		診療情報管理学	2	後期		2	
		国際統計分類	3	後期		2	
	経営情報科目	経済情報学	2	前期	2		
		経営情報学	2	後期	2		
		経営データ価値創造演習	3	前期	2		
		ビジネス価値創造論	2	後期		2	
		データアントレプレナー実践論	3	後期		2	
		情報社会論	3	後期		2	
	卒業研究科目	卒業研究	4	通年	6		

◆オンライン ◇オンライン（一部対面）

必修

選択

	専門基礎	数理・統計	プログラミング	情報工学	人工知能	医療情報	経営情報	
4 年 次				卒業研究				
3 年 次	量子物理学			情報セキュリティ オペレーティングシステム プロジェクト管理 計算機アーキテクチャ	システム工学 確率と確率過程 情報理論	人工知能の理論 パターン認識技術 マルチメディア情報処理	国際統計分類 医療データ価値創造演習 医療統計学	情報社会論 データアントレプレナー実践論 経営データ価値創造演習
2 年 次	応用数学 微積分学 2 技術者倫理	多変量解析 数理統計学 データサイエンス応用基礎 2		ソフトウェア工学 オートマトンと計算理論 計測論 論理回路 コンピュータネットワーク	デジタル信号処理 データベース論 データ構造とアルゴリズム	画像情報処理 実践的機械学習 人工知能	診療情報管理学 医療管理論	ビジネス価値創造論 経営情報学 経済情報学
1 年 次	物理学 2 微積分学 1 物理学 1	実験計画法 データサイエンス応用基礎 1	プログラミング言語論 Webプログラミング プロジェクト演習 プログラミング 2 プログラミング 1	情報技術基礎 情報基礎				企業実習

履修モデル

学年	学期	科目名	共通教育科目		専門科目		合計
			必修	選択	必修	選択	
1年	前期	ライフデザイン1	1				
		データサイエンス・AI入門	2				
		英語1	1				
		心理学		2			
		経済学		2			
		数理科学入門		2			
		イノベーションをはじめよう		2			
		統計学入門		2			
		アカデミック・イングリッシュ		2			
		基礎数学			2		
		物理学1			2		
		プログラミング1			2		
	情報基礎			2			
	合計	4	12	8		24	
	後期	ライフデザイン2	1				
		英語2	1				
		生命と物質のサイエンス		2			
		科学とはなんだろう		2			
		SDGs概論		2			
		微積分学1			2		
		線形代数			2		
		プログラミング2			2		
		プロジェクト演習			2		
		論理数学				2	
		情報技術基礎				2	
		合計	2	6	8	4	
2年	前期	ライフデザイン3	1				
		英語3	1				
		工学基礎実験			1		
		データサイエンス応用基礎1			2		
		データ構造とアルゴリズム			2		
		人工知能			2		
		経済情報学			2		
		技術者倫理				2	
		実験計画法				2	
		プログラミング言語論				2	
		論理回路				2	
		データベース論				2	
	合計	2		9	10	21	
	後期	ライフデザイン4	1				
		英語4	1				
		データサイエンス応用基礎2			2		
		数理統計学			2		
		実践的機械学習			2		
		画像情報処理			2		
		経営情報学			2		
		多変量解析				2	
		ソフトウェア工学				2	
		デジタル信号処理				2	
		ビジネス価値創造論				2	
		合計	2		10	8	
	通年	企業実習（インターンシップ）			2		2
合計				2			
3年	前期	ライフデザイン5	1				
		医療統計学			2		
		経営データ価値創造演習			2		
		オペレーションズリサーチ				2	
		数値解析法				2	
		プロジェクト管理				2	
		計算機アーキテクチャ				2	
		情報理論				2	
		マルチメディア情報処理				2	
		パターン認識技術				2	
		合計	1		4	14	
	後期	ライフデザイン6	1				
		医療データ価値創造演習			2		
		オペレーティングシステム				2	
		情報セキュリティ				2	
		システム工学				2	
		人工知能の理論				2	
		データアントレプレナー実践論				2	
		合計	1		2	10	
4年	通年	卒業研究			6		6
		合計			6		
合計			12	18	49	46	125
卒業に必要な単位数			12	10	49	41	124

2025年度 データサイエンス学科 学年暦

前 期

入学式	4月4日(金)
新入生ガイダンス	4月4日(金)・4月7日(月)
授業	4月8日(火)～7月25日(金)
創立記念日	6月29日(日)
補講日	7月26日(土)・7月28日(月)・7月29日(火)
選択科目定期試験	7月30日(水)
定期試験(予定)	7月31日(木)～8月5日(火)
追再試験手続(予定)	8月19日(火)・8月20日(水)
追再試験(予定)	8月26日(火)～9月2日(火)

授業曜日一覧

授業回数	月	火	水	木	金
①	4月14日	4月8日	4月9日	4月10日	4月11日
②	4月21日	4月15日	4月16日	4月17日	4月18日
③	4月28日	4月22日	4月23日	4月24日	4月25日
④	※ 5月9日	※ 5月1日	4月30日	5月8日	5月2日
⑤	5月12日	5月13日	5月7日	5月15日	5月16日
⑥	5月19日	5月20日	5月14日	5月22日	5月23日
⑦	5月26日	5月27日	5月21日	5月29日	5月30日
⑧	6月2日	6月3日	5月28日	6月5日	6月6日
⑨	6月9日	6月10日	6月4日	6月12日	6月13日
⑩	6月16日	6月17日	6月11日	6月19日	6月20日
⑪	6月23日	6月24日	6月18日	6月26日	6月27日
⑫	6月30日	7月1日	6月25日	7月3日	7月4日
⑬	7月7日	7月8日	7月2日	7月10日	7月11日
⑭	7月14日	7月15日	7月9日	7月17日	7月18日
⑮	※ 7月23日	7月22日	7月16日	7月24日	7月25日

※通常と違う曜日に授業が行われます。

後 期

授業	9月12日(金)～1月9日(金)
選択科目定期試験	1月7日(水)
補講日	1月13日(火)・1月14日(水)
定期試験(予定)	1月15日(木)～1月20日(火)
追再試験手続(予定)	2月5日(木)～2月9日(月)
追再試験(予定)	2月12日(木)～2月17日(火)

授業曜日一覧

授業回数	月	火	水	木	金
①	※ 9月12日	9月16日	9月17日	9月18日	9月19日
②	9月22日	9月30日	9月24日	9月25日	9月26日
③	9月29日	10月7日	10月1日	10月2日	10月3日
④	10月6日	10月14日	10月8日	10月9日	10月10日
⑤	10月20日	10月21日	10月15日	10月16日	10月17日
⑥	10月27日	10月28日	10月22日	10月23日	10月24日
⑦	※ 11月6日	11月4日	10月29日	10月30日	10月31日
⑧	11月10日	11月11日	11月5日	11月13日	11月7日
⑨	11月17日	11月18日	11月12日	11月20日	11月14日
⑩	12月1日	11月25日	11月19日	11月27日	11月21日
⑪	12月8日	12月2日	11月26日	12月4日	11月28日
⑫	12月15日	12月9日	12月3日	12月11日	12月5日
⑬	12月22日	12月16日	12月10日	12月18日	12月12日
⑭	1月5日	12月23日	12月17日	12月25日	12月19日
⑮	※ 1月9日	1月6日	12月24日	1月8日	12月26日

※通常と違う曜日に授業が行われます。

※補講日は交通機関の運休や台風等の災害等で1日休講となった場合に振り替えて授業を行います。振り替えが行われなかった場合は休日となります。
 なお、入試日程等の都合により変更となる場合があります。

授業関連および 学生生活上の規則について

授業および時間割

1. 授業時間は以下のとおりです。

授業時限	1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目
時間 90 分	9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05

2. 学生は各授業の開始時刻までに必ず教室に入室してください。遅刻者は入室を許可されないばかりでなく、欠席扱いになることがあります。

3. 授業中は私語や携帯電話の使用、飲食等をせず、静粛に受講してください。無断退室や授業を妨げるような行為は厳に慎んでください。講義は大学側で撮影するため、ビデオ、カメラ、タブレット等での撮影・録音はしないでください。違背者には厳正に対処いたします。

4. 授業中に病気等やむを得ない事由で退席をするときは、授業担当教員にその旨を話し、指示を受けてください。

5. 時間割の変更、教室の変更、休講等はその都度、掲示等でお知らせします。

履修登録

大学の授業には、全員が受講する必修科目と自由に選択することのできる選択科目があります。各学生がどの科目を受講するかについては大学に申告する必要があります。その申告が履修登録です。履修登録をしないと成績評価は勿論、単位が認定されなくなりますので、全員必ず行ってください。

1. 1 学期に履修できる単位の上限は、原則として 24 単位とします。

ただし、

- ・卒業研究
- ・リメディアル科目（数学基礎演習）
- ・国際事情 1, 2
- ・授業期間外に行われる科目
- ・その他別途指示のあった科目

を除きます。

※2 年次以上で G P A が 3. 2 を超える者は、各学期で履修制限単位数から更に 2 単位分を追加で履修することが出来ます。

2. 時間割上、同一時限に組まれている科目は原則として重複して履修することはできません。

3. 既に単位を取得した科目を再び履修することはできません。

4. 入学後の「基礎学力テスト」の成績が所定の水準に達しない場合は「数学基礎演習」の履修を指示されます。履修を指示された学生は「数学基礎演習」の単位が未修得の状態では、「微積分学 1」を履修できません。

5. 留学生については、「日本語 1・2」を履修して下さい。

6. 試験が不合格となり、次学期以降に再び同じ授業を受けることを再履修といいます。再履修をする場合は、再度、履修登録をしなければなりません。

なお、履修登録期間等についてはガイダンスにてお知らせいたします。

出欠席

単位認定は授業時間数が基準になります。従って授業に出席することが大変重要になりますので、必ず出席してください。また、年度初めのガイダンスや実習等に関する各種ガイダンスにも出席してください。

注）出席の回数、出席すべき授業時間数の 3 分の 2 に満たない場合には、当該科目について評価の対象外となり、定期本試験およびこれに準ずる試験の受験資格を失います。実習・演習等、実技を修得することが必要な科目については、基準が引き上げられる場合があります。

1. 講義・実習・演習などへの出欠の調査は、「出席管理システム」のほか、点呼、アンケート、サイン名簿表、レポート、小テスト等によって行います。授業担当者によりその方法は異なります。

2. 大学または教員の都合による休講は、出席すべき授業時間数に含みません。

3. 欠席回数については学生各自の自己管理を原則とします。

4. 「出席管理システム」では、講義室・実習室の入退室の際に必ず学生証をカードリーダーにかざしてください。学生証をかざし忘れた場合、欠席扱いになることがあります。また、他人に学生証を預けカードリーダーにかざしてもらい、他人の学生証を預かり代わりにカードリーダーにかざす、講義前後だけカードリーダーにかざして実際には出席しない等の行為は不正行為となります。（6. 参照）やむを得ず学生証の携帯を忘れた場合は、事務窓口で所定の手続きを行ってください。

5. 「出席調査用サイン名簿」を使用する場合、あるいは小テスト、レポート等により調査する場合は、原則として以下の取扱いとなりますので注意してください。
- (1) 出席調査時に不在の場合は欠席扱いとなります。
 - (2) サイン名簿を使用する場合、所定欄に記入しない場合は欠席扱いとなります。
 - (3) 次のような行為は、不正行為となります。(6. 参照)
 - ①他人に自分の小テスト、レポートまたはサイン名簿の記入を依頼した場合
 - ②小テスト、レポートまたはサイン名簿に他人の氏名等を記入した場合
 - ③途中退席者の小テスト、レポートをその者に代わって提出した場合、および依頼した場合
 - ④サイン名簿に記入された他人の氏名を消去した場合
 - ⑤サイン名簿の巡回を妨害した場合
 - ⑥その他、出席に関する不正行為を行った場合
6. **出席に関する不正行為を行った場合は、以下の処分とし、学則に従い懲戒処分を科すこともあります。**
- (1) 当該授業を欠席扱いとする
 - (2) 当該科目の定期試験の受験を認めない(本試験における成績評価は不合格とする)
7. 病気、事故等やむを得ない事情で欠席する場合は、診断書等やむを得ない事由であることを証明できる書類を添付のうえ、事前に所定の欠席届を LMS に提出してください。事前に手続きができない場合は登校可能日から 7 日以内に LMS に提出してください。届出が提出されても出席扱いとはしませんが、成績評価の参考資料、学生指導上必要ですので必ず提出してください。欠席届の提出期限は厳守してください。ただし、当該科目の定期試験日まで 7 日以内の場合は、最終講義日までに科目責任者へ連絡してください。
8. 交通機関の事故等により遅刻となった場合は、大学に到着後速やかに遅刻届を提出してください。遅刻届には証明書が必要ですので、駅で必ず遅延証明書を受け取ってください。ただし、JR 埼京線の遅延については、JR より大学へ直接連絡が入りますので、遅延証明書の提出は不要です。
9. 試験欠席の場合は、別掲の「試験」の規定に従ってください。
10. 以下にあげる理由による欠席の場合、授業(実習を除く)の欠席回数に算入しません。
- (1) 学校感染症と診断された、または罹患の疑いがあると認められた場合で、出席停止の基準に該当する場合
 - ①学校感染症については、CAMPUS GUIDE を参照してください。
 - ②所定の欠席届に診断書を添付のうえ、登校可能日から 7 日以内に LMS に提出してください。
 - (2) 下表に示す忌引に該当する場合
 - ①忌引扱い日数は下表のとおりです。

学生との関係	忌引扱い日数
一親等(父、母、子)、配偶者	7 日
二親等(祖父母、兄弟姉妹)	5 日
三親等(伯父、叔父、伯母、叔母、曾祖父母)	3 日

 - ②忌引扱い日数は、死亡日から起算した、日・祝日を含んだ連続の日数とします。授業を欠席した場合は、所定の忌引届に死亡診断書または戸籍謄本など死亡日がわかる書類を添えて、忌引扱いの終了する日から数えて 7 日以内に LMS に提出してください。
 - ③葬儀当日が忌引扱い日数に該当しない場合、所定の欠席届に会葬礼状や葬儀施行証明書など葬儀日がわかる書類を添えて葬儀終了後 7 日以内に LMS に提出してください。葬儀当日の欠席は忌引と同等扱いとし、欠席回数に算入しません。
 - ④忌引による試験欠席については別掲の「試験」の規定に従ってください。
 - (3) 就職試験(最終学年のみ)を受験した場合

所定の欠席届に受験票や来院証明書など受験したことがわかる書類を添付のうえ、登校可能日から 7 日以内に LMS に提出してください。

交通機関の不通と警報による休講

交通機関が事故等で不通になった場合や警報が発令された場合の授業・実習の取扱いについては、CAMPUS GUIDE を参照してください。

単位認定

単位は学修時間をもとに決められており、授業の方法および授業の教育効果などを考慮し、1 単位は 45 時間(講義の場合、授業 15 時間、予習 15 時間、復習 15 時間)の学修が基準となっています。

1. 1つの授業科目につき、出席すべき授業時間数の3分の2以上の出席と60点(C評価)以上の成績評価により、所定の単位を認定します。実習等は時間数が3分の2以上に引き上げられる場合があります。
2. 成績評価は、90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、60点未満をDとします。60点未満(D評価)は不合格とし、単位は認定されません。
3. 原則として認定された単位および成績は取り消すことはできません。
4. 以下のような場合は、学部長の承認が必要となります。

- 新入生で、他大学等を卒業または退学した学生が、当該大学において修得した単位の認定を希望する場合
- 資格取得等による単位認定

下表に掲げる資格を取得した場合(入学前の取得も含む)は、特定科目の単位を修得したものとして認定します。成績評価はすべて90点(S評価)とします。なお、修得していない科目が対象です。単位認定を希望する学生は、受付期間に合格証等を添えて所定の「単位認定申請書」を教務課窓口に提出して下さい。

① 英語(在学期間中、最大8単位まで)

該当資格				認定科目
実用英語技能検定 2級	TOEFL iBT 45以上	TOEIC L&R 500以上	IELTS 4.0---5.0	英語科目 4単位(英語1, 2, 3, 4)
実用英語技能検定 準1級	TOEFL iBT 61以上	TOEIC L&R 600以上	IELTS 5.5---6.5	英語科目 6単位(英語1, 2, 3, 4、 TOEIC対策英語)
実用英語技能検定 1級	TOEFL iBT 79以上	TOEIC L&R 750以上	IELTS 7.0---9.0	英語科目 8単位(英語1, 2, 3, 4、 TOEIC対策英語、 イングリッシュ・コミュニケーション または アカデミック・イングリッシュ)

② 情報関連資格

該当資格	認定科目
I Tパスポート	情報基礎
基本情報技術者	情報技術基礎
応用情報技術者	データ構造とアルゴリズム
データベーススペシャリスト	データベース論
ネットワークスペシャリスト	コンピュータネットワーク

上記以外で単位認定が必要となった場合は教務委員会で審議し、教授会で決定の上、掲示等により告知します。

5. 進級ならびに卒業判定に一切の例外はありません。

GPA制度

GPA(Grade Point Average)制度とは、学修の成果を客観的な数値で評価するものです。この制度は、米欧の大学で採用している成績評価制度に概ね準拠しています。

<GPAの算出方法>

$4.0 \times S$ の修得単位数 $+ 3.0 \times A$ の修得単位数 $+ 2.0 \times B$ の修得単位数 $+ 1.0 \times C$ の修得単位数

総履修登録単位数(「不合格」の単位数を含む)

学生に求められる望ましい成績水準は、GPA2.5以上です。成績不振学生は、担当教員等より個別面談、学修指導を行い、学修を継続する意欲がない、継続することが不可能である場合には、退学勧告の対象となります。

試験の種類など

1. 試験には主に次の種類があります。
 - (1) 定期本試験
 - (2) 中間試験
 - (3) 授業中に行う試験
2. 定期本試験は原則として、前期または後期定期試験期間中に実施します。定期本試験の時間割・試験場は原則として**試験開始の2週間前まで**に掲示します。試験時間は原則として以下のとおりです。試験開始 10 分前には試験場に集合してください。

試験時限	1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目	6 時限目
時間 60 分	9:30～10:30	11:00～12:00	13:00～14:00	14:30～15:30	16:00～17:00	17:30～18:30

3. 中間試験および授業中に行う試験は授業の進捗状況に応じて行うもので、実施については科目担当者の指示によります。
4. 次のいずれかに該当する場合、受験を認めません。(成績評価の対象外となります)
 - (1) 出席回数が、出席すべき授業時間数の**3分の2に満たない科目**。実習・演習等、実技を修得することが必要な科目については、基準が引き上げられる場合があります。
 - (2) 授業料その他必要な学費が**所定の期日までに未納である者**。
5. 遅刻者は原則として受験を認めません。ただし、病気、事故その他やむを得ない事情により、**遅刻が試験開始後 20 分以内**であれば受験を認めます。その場合も原則として試験時間の延長は認めません。

追試験と再試験

I. 試験欠席と追試験

1. 病気、事故その他やむを得ない事情により定期本試験を受験できない場合は、午前 8 時 45 分以降、試験開始時刻までに電話で事務部教務課に連絡するとともに試験欠席届を提出してください。(試験開始時刻を過ぎた場合は可及的速やかに連絡をしてください。本人が連絡できない場合には家族からの連絡でも構いません)届出は、**試験日を含む 3 日以内**に所定の試験欠席届に欠席事由を証明する書類を添付して事務部教務課へ提出してください。期限までに提出しない場合は、**受験を放棄したものとみなします**。提出期限までに提出できないやむを得ない事由がある場合は申し出てください。また、定期本試験の受験を放棄した場合は、追試験および再試験の受験資格を失います。
2. 欠席事由を証明する書類は、病気・事故の場合は診断書・事故証明書等、忌引の場合は会葬礼状・葬儀施行証明書等です。忌引のために試験を欠席した場合は、期限内に試験欠席届と忌引欠席届を一緒に提出してください。
3. 所定の手続きを行い、試験欠席の事由がやむを得ない事情であると認められた者は、追試験を受験することができます。
4. 追試験を受験する者は、指定された期間内に所定の試験願と証明書発行機による追試験料(1 科目につき 500 円)の入金証明書を事務部教務課へ提出しなければなりません。
5. 追試験の最高点は 90 点です。なお、追試験の再試験は行いません。
6. 中間試験については原則として追試験を行いません。ただし、科目担当者が必要と認めた場合はその限りではありません。

II. 再試験

1. 本試験後の評価が不合格となった者に対しては、再試験を行うことがあります。
2. 再試験を受験する者は、指定された期間内に所定の試験願と証明書発行機による再試験料(1 科目につき 2,000 円)の入金証明書を事務部教務課へ提出しなければなりません。なお、期間内に受験手続きをしなかった者は**受験を放棄したものとみなします**。
3. 再試験の最高点は 60 点です。なお、再試験の追試験は原則として行いません。
4. 中間試験については原則として再試験を行いません。ただし、科目担当者が必要と認めた場合はその限りではありません。

受験上の注意

I. 受験における注意事項

1. 試験室においては監督者の指示に従ってください。監督者の指示に従わない者には退場を命ずることがあります。
2. 試験室においては座席表に従い着席してください。

3. 学生証は机上の指定された位置に置いてください。当日学生証を携帯していない者は事務部学生課に申し出て仮学生証の発行申請をしてください。**学生証または仮学生証のない者には受験を許可しません。**
4. 筆記用具（鉛筆・消しゴム）以外の参考書、ノート、メモ類、電子機器類等（スマートフォン、タブレット端末、スマートウォッチ、ワイヤレスイヤホンを含むウェアラブル端末等）は、試験開始前にカバンの中に入れてください。また、**電子機器類等は必ず電源を切っておいてください。**帽子を着用している場合は、カバンの中に入れてください。
5. 参考書、ノート類の持ち込みを許可された場合は、試験開始前にすべて指定された場所に置いてください。書き込み、複写物（コピー）等については、事前に科目担当者の指示に従ってください。
6. 試験開始後 30 分以内の退室は許可しません。また事情によって 30 分以上たっても許可しないことがあります。なお、退室許可以前に退室した場合は受験放棄したものとみなします。ただし、発病や突発事故等やむを得ない場合は監督者の指示に従ってください。
7. 答えは監督者の指示に従って提出し、提出後は速やかに退室してください。

II. 試験における不正行為およびその対処

1. 試験中の次のような行為は不正行為とみなされます。
 - (1) 試験監督者が許可していないものを使用した場合、または机上や机の中に置いたり所持していたりした場合。
 - (2) 受験者同士で私語をした場合、あるいは受験者同士で筆記用具を貸借した場合。
 - (3) 他人の答案を故意に覗いたり、また故意に他人に見せたりした場合。
 - (4) 回収の指示がある試験問題等を試験室外へ持ち出した場合、または内容を記録した場合。
 - (5) その他試験監督者の指示に従わない等、受験態度が不良であった場合。
2. 不正行為を行った者には次のように対処します。
 - (1) 即時受験を停止し、試験室から退室させる。
 - (2) 不正行為を行った場合は、**不正行為を行った科目および当該年度中にすでに終了した試験の成績をすべて無効とすると同時に不正行為を行った時点以降当該年度中のすべての試験（追試験、再試験を含む）について受験停止とする。**さらに学則および学部規程の定めにより、懲戒処分を行う。

レポート

担当教員の指示により、レポートを提出するときは、次の事項に注意してください。

1. レポート用紙のサイズは特に指定が無い場合は、各自判断してください。
2. 指定された期間・方法に従って、提出してください。受付期間前および締め切りに遅れたレポートは一切受け取れません。事務室前のレポート BOX に提出する場合は指定された BOX 番号を十分確認のうえ、投函してください。誤って提出しても取り出しは行いません。
3. 郵送および代理人提出は認められません。必ず本人が指定場所へ提出してください。
4. レポートは、学科、学年、学籍番号、氏名、科目名、担当教員名を記入してください。
5. レポート内容の盗用・剽窃は不正行為であるため、処分を科すことがあります。

卒業

I. 卒業に必要な単位数

卒業するためには、4年以上在学し124単位以上修得しなければなりません。また、卒業に必要な最低単位数の内訳は下記の通りです。

科目区分			必要な単位数		備考
共通教育科目	教養教育 科目	人文科学系分野	2 単位以上	8 単位以上	共通教育科目全体で 22 単位以上修得 ※1 必修は 12 単位 ※2 選択は 5 つの科目区分より 10 単位以上を修得
		社会科学系分野			
		自然科学系分野	2 単位以上		
		文理融合分野			
	初年次教育科目		2 単位(必修)		
	キャリア教育科目		4 単位(必修)		
	情報教育科目		2 単位(必修)		
	外国語教育科目		4 単位(必修)		
科 専 目 門	必修		49 単位	合計 90 単位以上	
	選択		41 単位以上		
共通教育科目(選択)と専門科目(選択)の超過分			12 単位		
合計			124 単位		

II. 卒業研究着手について

4年次の必修科目「卒業研究」に着手するためには、3年次修了時に100単位以上（卒業に有効な単位数）修得した上で、原則として3年次終了までの必修科目を全て修得している必要があります。

また、卒業研究に配属するための「ライフデザイン6」を履修するには、3年前期終了時までに70単位以上（卒業に有効な単位数）修得している必要があります。

III. 卒業と学士の学位

理工学部データサイエンス学科において、4年以上在学し、所定の単位を修得した学生は卒業資格を得て、「学士(データサイエンス)」の学位が与えられます。

在学年限

医学部および薬学部は12年、医療技術学部および理工学部は8年とします。ただし、スポーツ医療学科救急救命士コースおよび理工学部データサイエンス学科を除き、同一学年における在学年限を2年までとします。

休学

1. 休学は事情により認められます。
2. 休学しようとする者は、所定の休学願とその事由を証明する書類（下記記載）を事務部教務課へ提出し、学長の許可を得なければなりません。
 - ・疾病、負傷 : 医師の診断書（大学指定）
 - ・海外留学 : 受入校の入学許可書
 - ・その他の事由: 理由書（大学指定）
3. 休学期間は、休学願が提出された学年末までの1年以内ですが、事情によっては2年以内まで認めることがあります。その場合は改めて関係書類を提出して願い出なくてはなりません。
4. 休学期間は在学期間に算入しません。
5. 休学可能な年数は通算して3年ですが、連続して休学できるのは2年までです。
6. 休学中も指定された学費を納入する必要があります。ただし、前期の休学を希望する者は4月末までに、後期の休学を希望する者は10月末までに、本学が定める休学の手続きに従って休学願を提出し許可された場合に限り、「施設拡充費」「在籍料」の納入となります。

復学

1. 前期の復学を希望する者は2月中旬から2月末日まで、後期の復学を希望する者は8月中旬から8月末日までに所定の復学願を事務部教務課へ提出し、学長の許可を得なければなりません。病氣回復により復学する者は、「復学可能である」という医師の診断書を添付してください。
2. 復学した場合は復学した学年と同額の学費を納入する必要があります。

退学

1. 病氣その他やむを得ない事由により退学しようとする者は、所定の退学願を事務部教務課に提出し、学長の承認を得なければなりません。退学願には学生証を添付してください。
2. 他の大学に転学しようとする場合は退学願を事務部教務課へ提出し、学長の承認を得た後、転学の手続きをしてください。
3. 退学を願い出る場合は、退学日までの学費を完納していなければなりません。

除籍・復籍

1. 以下のいずれかに該当する者は除籍となります。（スポーツ医療学科救急救命士コースおよび理工学部データサイエンス学科は（2）は除く）
 - （1）学則に定める在学年限を超えた者（医学部および薬学部12年、医療技術学部および理工学部8年）
 - （2）同一学年の在学年数が2年を超えた者
 - （3）長期にわたり行方不明の者
 - （4）授業料等を正当な事由なく期日内に納入せず、かつ督促を受けても納入しない者
 - （5）出入国管理及び難民認定法に定める「留学」等の中長期在留資格の取得が不許可又は不交付とされた者
2. 上記（4）による除籍後、長期にわたらないうちに事由が解消し、学業継続が可能になった者が復籍を願い出たときは許可されることがあります。復籍を希望する者は、学費を納入すると共に、復籍料 30,000 円を添えて所定の復籍願を事務部教務課に提出してください。

オフィスアワー

本学には、オフィスアワー制度が設けられています。オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんの授業履修・学業成績あるいは学生生活についての相談を受けながら、コミュニケーションを深め、アドバイスすることによって、より良い大学生活を送ってもらうために設けられた、授業以外の時間のことをいいます。相談時間については、別途掲示などで周知しますが、該当する時間であっても、出張や会議等の理由から教員が不在となる場合があります。

講義内資料

授業中に使用する資料の中には、様々な文献から引用した図表や日常の診療で経験した画像などが含まれます。これらの資料は、学生が勉学に利用することを目的としていますので、自らの勉学以外に不正に使用することや、どこかに置き忘れて学外者にわたるようなことがないように注意してください。

科目ナンバー

シラバスに記載の「科目ナンバー」は、体系的な学修のために、科目を分類したものです。

2023 年度から、学問分野ごとの分類に変更しました。ただし、新旧カリキュラムが混在する学科においては、新カリキュラムから適用します。

上 4 桁～下 5 桁で表します。上 4 桁、下 5 桁の分類ルールは以下のとおりです。

【上 4 桁（1 桁目～4 桁目）】

1 桁目～3 桁目（学問分野）	4 桁目（水準・難易度）
学問分野を示すアルファベット 3 文字。学問分野一覧は、CampusSquare で確認してください。 ※教務／授業関連＞シラバス参照／条件入力 「科目ナンバリングについて」参照	1 学士課程 1 年レベル
	2 学士課程 2 年レベル
	3 学士課程 3 年レベル
	4 学士課程 4 年レベル
	5 修士・博士前期課程レベル
	6 博士・博士後期課程レベル

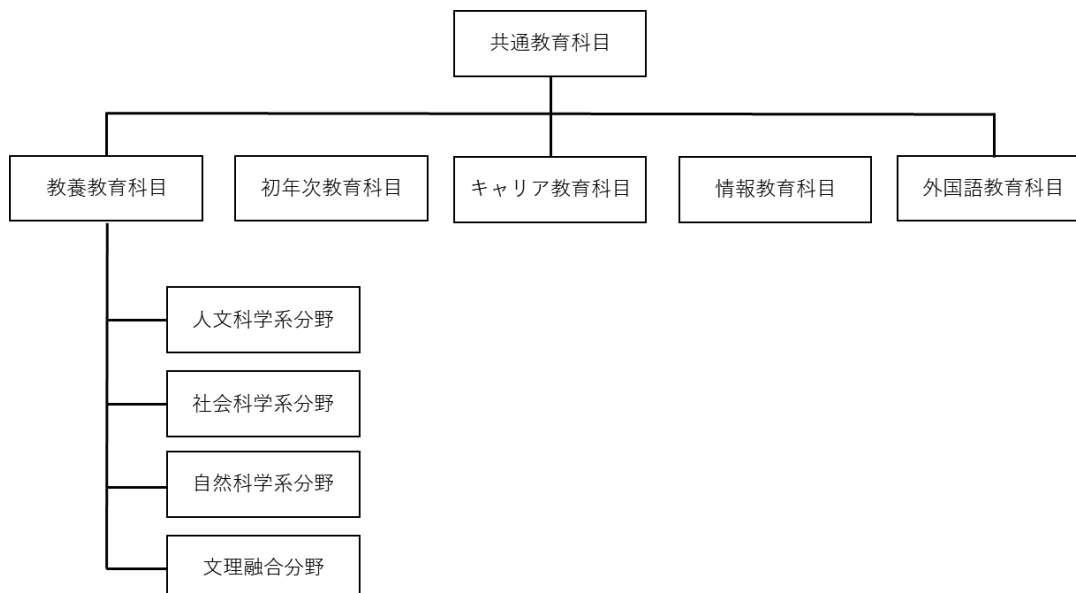
【下 5 桁（5 桁目～9 桁目）】

5 桁目（学部）・6 桁目（学科）	7 桁目～9 桁目（通し番号）
01 板橋キャンパス共通	6 桁目までが同じになる ナンバーごとに通し番号 001～
D1 医学部医学科	
E1 薬学部薬学科	
G1 医療技術学部視能矯正学科	
G2 医療技術学部看護学科	
G3 医療技術学部診療放射線学科	
G4 医療技術学部臨床検査学科	
G5 医療技術学部スポーツ医療学科救急救命士コース	
F5 理工学部データサイエンス学科	

共通教育科目

共通教育科目には、5 つの科目区分があり、文系・理系を学修できる「教養教育科目」、学びの基礎となる汎用的スキルを身に付ける「初年次教育科目」、生涯学び続ける力と勤労観を育む「キャリア教育科目」、デジタル社会で必要となる情報収集力を身に付ける「情報教育科目」、語学力と異文化理解力を身に付ける「外国語教育科目」から構成されています（共通教育科目区分は、各学科の授業科目履修一覧表を参照のこと）。

社会状況が急速に変化する現代の社会では、社会における課題が多様化・複雑化する傾向にあります。このような課題に対応するためには、単独あるいは限定された専門分野の知だけでは難しく、文理複眼的な思考力が求められます。そこで、教養教育科目においては、人文科学系分野、社会科学系分野、自然科学系分野、文理融合分野の 4 つの分野を設けています。各分野を確実に学修して、文理複眼的な視野を修得してください。



数理・データサイエンス・AI 応用基礎教育プログラム

帝京大学理工学部では、近年の高度情報化社会で求められている数理・データサイエンス・AI といった内容を教養として身につけるため「データサイエンス・AI 入門」を1年次の必修科目として設定しています。さらに、応用基礎レベルの数理・データサイエンス・AI の知識および技術を身につけることを目的に、「データサイエンス応用基礎 1」「データサイエンス応用基礎 2」を2年次の必修科目として設定し、「数理・データサイエンス・AI 応用基礎教育プログラム（理工学部）」を開講しています。本プログラムを修了した学生には、オープンバッジを付与します。なお、本プログラムの概要や科目については本学ホームページ（https://www.teikyo-u.ac.jp/studentlife/edu_support/ai_edu）をご確認ください。